

## 2009 年度学会彙報

### 1. 総会報告

出席者 27 名 (委任状 26 名) 定足数を超え、総会が成立した。

- ・総務報告 (会員移動状況) が報告された。
- ・2008 年度決算報告、事業報告 (別紙) が承認された。
- ・2009 年度予算案、事業計画案 (別紙) が審議され、承認された。

### 2. 第 2 回大会報告

日時: 2009 年 8 月 8 日 (土) 13:00 ~ 18:00

場所: 大東文化大学大東文化会館 1F 大ホール

参加者: 48 名

プログラム:

13 時 開会の辞

13 時 10 分 総会 ( ~ 13 時 40 分 )

14 時 スポンサーセッション

KAYPENTAX、キッセイコムテック、サン・エデュケーショナル、勉誠出版

14 時 40 分 コーヒーブレイク

15 時 30 分 研究発表

ジッパーリ語の多音節語のプロソディー記述 二ノ宮崇司

自然言語音を用いた発話速度の認知実験 丸島歩

意味範疇 [±人間] の文法性への関与—一事象関連電位 (ERP)

を援用した聴覚刺激課題による実験言語学研究—

福盛貴弘・井本亮・桐越舞

18 時 閉会の辞

18 時 30 分 懇親会

### 3. 理事会報告

第 2 回理事会 (2008 年度)

出席者: 城生佰太郎、福盛貴弘、島田武 (委任状 2 名)

日時: 2009 年 3 月 30 日 16:00 ~ 17:00

場所: 大東文化大学大東文化会館 k-401

- 1) 2009 年度の大会の日程を 8 月 8 日 (土) (於 大東文化大学) に決定した。
- 2) 口頭発表規定を検討した。
- 3) 編集委員会から、編集委員の増員と投稿規程の微修正に関する報告があった。
- 4) 三浦理事を広報委員長に任命した。

第 1 回理事会

出席者: 城生佰太郎、池田潤、三浦弘、福盛貴弘、渡辺勉 (委任状 2 名)

日時: 2009 年 7 月 11 日 13:00 ~ 15:00

場所: 大東文化大学大東文化会館 k-403

- 1) 予算案、事業計画案を審議した。
- 2) 事業報告、決算に対する会計監査報告があった。
- 3) 第2回大会口頭発表者を確認した。
- 4) 現在の財務状況を確認した。

#### 第2回理事会

出席者：城生佰太郎、三浦弘、福盛貴弘、島田武（委任状1名）

日時：2010年3月13日 17:00～18:00

場所：大東文化大学大東文化会館 k-403

- 1) 会員の異動報告、会計中間決算報告があった。
- 2) 学会誌の進捗状況の報告があった。
- 3) 除名規定に該当する会員について審議した。
- 4) 第3回大会について検討した。
- 5) 会員外に査読を依頼した時の謝金について検討した。

#### 4. 編集委員会報告（編集委員長：島田武）

・論文1件、研究ノート2件の応募があり、匿名査読（2名）の結果、論文1件、研究ノート2件が採択された。

#### \* 第3回大会

2010年8月下旬に専修大学での開催を予定しております。

#### \* 会費納入のお願い

正会員の方は、年度内に年会費2,000円を以下の口座に納入してください。

#### ゆうちょ銀行

口座番号 00120-9-262862

口座名義 日本実験言語学会

#### < 他銀行から振り込まれる方 >

銀行名：ゆうちょ銀行

支店名：〇一九（ゼロイチキュウ）店

支店番号：019

口座番号：当座 0262862

#### \* 会員情報の変更に関して

<http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ippan/JELS/>に会員情報変更用の書類をUPしておきます。情報に変更がある方は、書類に必要事項をご記入の上、事務局宛にお送りください。

## 役員名簿

会長 城生 佰太郎

副会長 池田 潤 (会計)

理事 三浦 弘 (広報)

理事 福盛 貴弘 (事務局長)

理事 島田 武 (編集)

監事 橋本 邦彦

監事 渡辺 勉

(任期 2008年8月29日～2012年3月31日)

# 日本実験言語学会 総会資料

日時：2009年8月8日(土) 13:10～13:40

場所：大東文化会館 1F 大ホール

## 1. 総務報告

### 会員異動状況

会員の種別	会員数		増減数
	2008年度末 2008年3月31日	2009年度 2009年7月11日現在	
正会員 (うち学生)	81 (36)	83 (38)	2 (2)
賛助会員	3	3	0
合計	84	86	2

入会 正会員3名(うち学生2名)、退会 正会員1名

## 2. 2008年度事業報告

### (1) 設立記念大会

日時：2008年8月29日(金) 13:00～13:50

場所：筑波大学人文社会学系棟5階 B519 会議室

参加者：34名

#### 基調講演

演題：脳波を使った音声・言語研究 発出者の視点から受容・認知の視点へ

演者：城生 佰太郎(筑波大学)

パネルディスカッション「実験と記述の架け橋」

パネリスト：(氏名「副題」、発表順)

福盛貴弘(大東文化大学)「実験言語学の方向性」

池田 潤(筑波大学)「実験文字学の構想」

橋本 修(筑波大学)「実験的方法・実験による成果の日本語史研究への援用」

司会進行：島田 武(室蘭工業大学)

### (2) 学会誌の刊行

『実験音声学・言語学研究』(英文名 Research in Experimental Phonetics and Linguistics)

創刊号 2009年3月24日

基調講演1点、パネルディスカッション3点、論文1点

### (3)役員会

#### 第1回理事会

出席者：城生佰太郎、三浦弘、福盛貴弘（委任状2名）

日時：10月2日 18:30～20:00

場所：専修大学神田キャンパス

- 1)学会誌の名称・内容に関する検討が行われた。
- 2)学会通信を「JELS 通信」とし、メールで配信することを決定した。
- 3)現在の財務状況を確認した。

#### 第2回理事会

出席者：城生佰太郎、福盛貴弘、島田武（委任状2名）

日時：2009年3月30日 16:00～17:00

場所：大東文化大学大東文化会館 K-401

- 1)2009年度の大会の日程を8月8日（土）（於 大東文化大学）に決定した。
- 2)口頭発表規定を検討した。
- 3)編集委員会から、編集委員の増員と投稿規程の微修正に関する報告があった。

#### 編集委員会

出席者：島田武（委員長）、福盛貴弘

日時：2008年12月

場所：メール会議

- 1)投稿規程、執筆要綱を検討した。

### (4)その他

JELS 通信 No.1 を会員に送信した。

### 3. 2008 年度決算報告

	項目	金額	備考
収入	正会員会費	56,000	81 名中 36 名免除, 17 名未払い
	賛助会員会費	2,000	サン・エデュケーショナル
	入会金	1,000	1 名 ( 発起人は免除 )
	大会参加費	12,000	明治書院、勉強出版、個人 1 名
	計	71,000	

	項目	金額	備考
支出	大会運営費	11,356	お茶・お菓子等
	広告費	3,675	ポスター作成
	郵送費	12,530	案内状送料
	人件費	16,000	バイト代
	事務諸経費	8,873	はんこ含む
	予備費	0	
	繰越金	18,566	2009 年度へ繰り越し
		計	71,000

### 4 . 2009 年度事業計画

#### (1)第 2 回大会の開催

日時：2009 年 8 月 8 日 ( 土 ) 13:00 ~ 18:00

場所：大東文化大学大東文化会館 1F 大ホール

スポンサーセッション 4 件、研究発表 3 件

#### (2)学会誌の刊行

『実験音声学・言語学研究』第 2 号を刊行する。

原稿締め切り 9 月末日。

## 5. 2009 年度予算案

### 収入

項目	金額	備考
会費	90,000	(正会員 45 名分)
寄付	6,000	(賛助会員 3 名分)
大会参加費	20,000	(3 社分)
前年度繰越金	18,566	
計	134,566	

### 支出

項目	金額	備考
大会運営費	20,000	
広告費	5,000	(ポスター作成)
郵送費	15,000	
人件費	50,000	(バイト代)
消耗品費	10,000	
予備費	34,566	
計	134,566	

## 6. その他

- ・編集委員会より論文提出の締め切りに関して
- ・会費の督促に関して

## 編集後記

『実験音声学・言語学研究』第2号をお届け致します。今号には論文1編と研究ノート2編が寄稿されています。

まず、二ノ宮崇司「ジッパーリ語の2音節語におけるプロソディー - 音響音声学的記述とその解釈 - 」において、英語母語話者 Johnstone (1981)によるストレス記述を、音響解析データに基づいて批判的に検討しています。そして Johnstone は音圧だけでなくピッチや時間長を加味してストレス記号を付していると考えられ、その表記からはジッパーリ語の音声学的なプロソディーの実体を予測することはできないと結論づけます。

次に柴崎秀子「文字種による文の認知処理速度の差異 - 日本語テキストの難易尺度構築のための基礎研究 - 」では、文正誤判断課題実験によって日本語テキストの平仮名表記と漢字表記の読みやすさについて検討しています。その中で漢字を、(1)漢字検定8級と9級、(2)漢字検定4級、(3)漢字検定準1級の3つのレベルに分割して平仮名と対照した結果、成人日本人場合、(1)のレベルでは漢字の方が読みやすいのに対し、(3)のレベルになると平仮名の方が読みやすいということが示唆されています。

最後に丸島歩「自然言語音を用いた発話速度の認知実験」では、発話速度とピッチ変化の異なる自然言語音を刺激とした脳波実験を行い、自身の半合成音による先行研究と対照させた結果、発話速度の変化が陰性波の N4a に現れるとした先行研究とは異なる結果が得られています。今回の実験結果では、発話速度とピッチの変化に関して normal と呼ばれている中間的な刺激とそれ以外の刺激 (fast と slow / up と down) で、陽性波の P2 の振る舞いが異なっていることから、normal か非 normal かを2項対立的に知覚している可能性を論じています。

以上のような論考が展開され、実験を手法として言語を分析するという本学会のコンセプトがいかんなく発揮されています。それぞれの主張を吟味していただき、その結果、賛否いずれにしても、知的興味を呼び起こすきっかけとなりましたら幸いに存じます。

( T. S. )

---

## 実験音声学・言語学研究 ( Research in Experimental Phonetics and Linguistics ) 第2号

発行者 : 日本実験言語学会

305-8571 つくば市天王台1-1-1 筑波大学文芸・言語専攻内池田潤研究室気付

電話・ファクス 029-853-4410 jels@lingua.tsukuba.ac.jp

<http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ippan/JELS/>

編集委員 : 島田武 ( 編集委員長 )、福盛貴弘、菅井康祐、高慧禎

2010年3月24日刊行

ISSN 1883-6763